

ハンセン病問題を 知っていますか



国立ハンセン病資料館
学芸員 金 貴粉

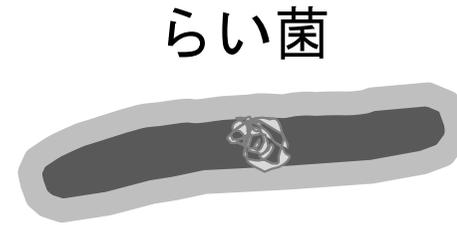
ハンセン病とは

- ・ハンセン病はらい菌による経過の慢性な感染症。
- ・社会の状態から強く影響を受ける。栄養や衛生状態が悪い場所で感染、発病する可能性が高い。
- ・有効な治療薬のある現在では治る病気。
- ・治療せずに進行すると変形などの症状が出る。

ハンセン病の症状



ハンセン病の皮膚症状



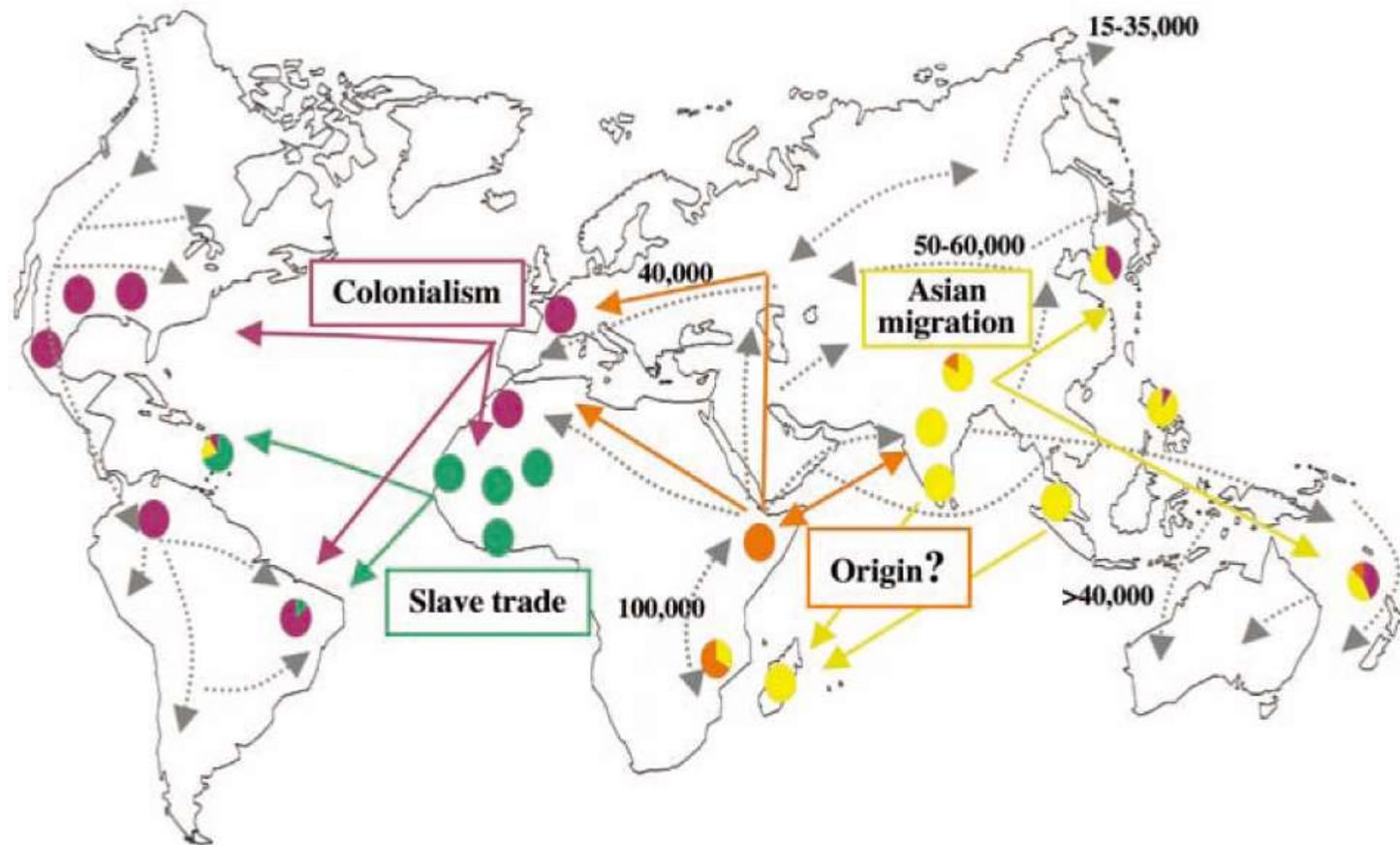
末梢神経障害



触覚、痛覚、温冷覚
運動神経などの障害

ハンセン病は主に皮膚と末梢神経に病変を作り、皮膚には紅斑や結節が生じる。またらい菌は末梢神経を特異的に侵し、知覚麻痺(触覚、痛覚、温度覚)や運動障害を起こす。

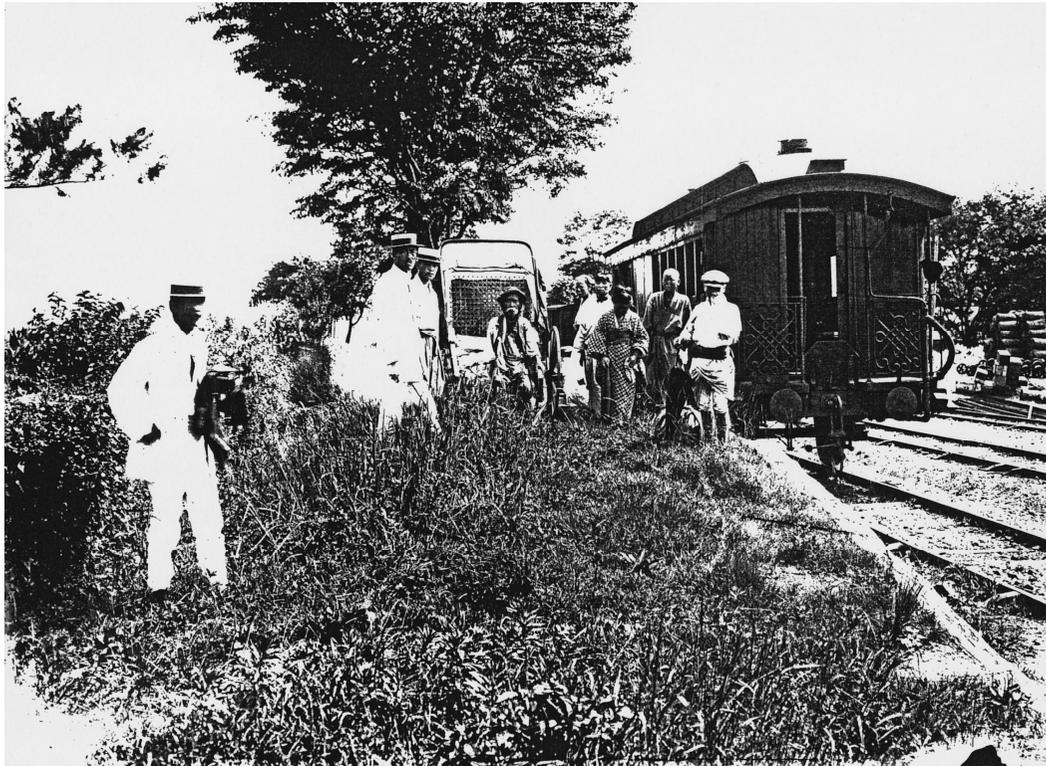
ハンセン病の起源と拡がり



On the origin of leprosy. Science. 308:1040-2. 2005

ハンセン病は、東アフリカまたは近東、エジプト、インド、中国に起源を持ち、人類の移動に伴い広がっていったと考えられている。このことは原因菌であるらい菌の遺伝子解析により明らかになっている。

日本のハンセン病史



患者送致用の車両「お召し列車」で
東村山駅へ

・1907(明治40)年

法律第11号「癩予防ニ
関スル件」公布

→それにより全国5カ
所に連合府県立の公
立療養所が設立され
ることになる。(青森、
東京、大阪、香川、熊
本) 収容対象→放浪
するハンセン病患者
(「浮浪癩」)

・たいへんな事になったと思った。すごい偏見があるのを知っておどろいた。他人に知られてはいけない、隠さなければと思った。

(1952 年入所 男性)

・死を覚悟した。自分はもう駄目だと絶望した。家族も一家離散になり、重大な迷惑をかけてしまう。(1975 年入所 男性)

・小学校を卒業して病院で調べてもらい、わかったとたん病院中を消毒した。母親から裏の木で首をつってくれないかと言われた。親には、保健所から「ハンセン病の子どもは優秀でない、殺しなさい、自殺させなさい、療養所に行くと都合わるいでしょ」とはっきり言われた。(1953 年入所 男性)



全生病院の収容門







園内通用券



視覚障がい者の洗濯場作業



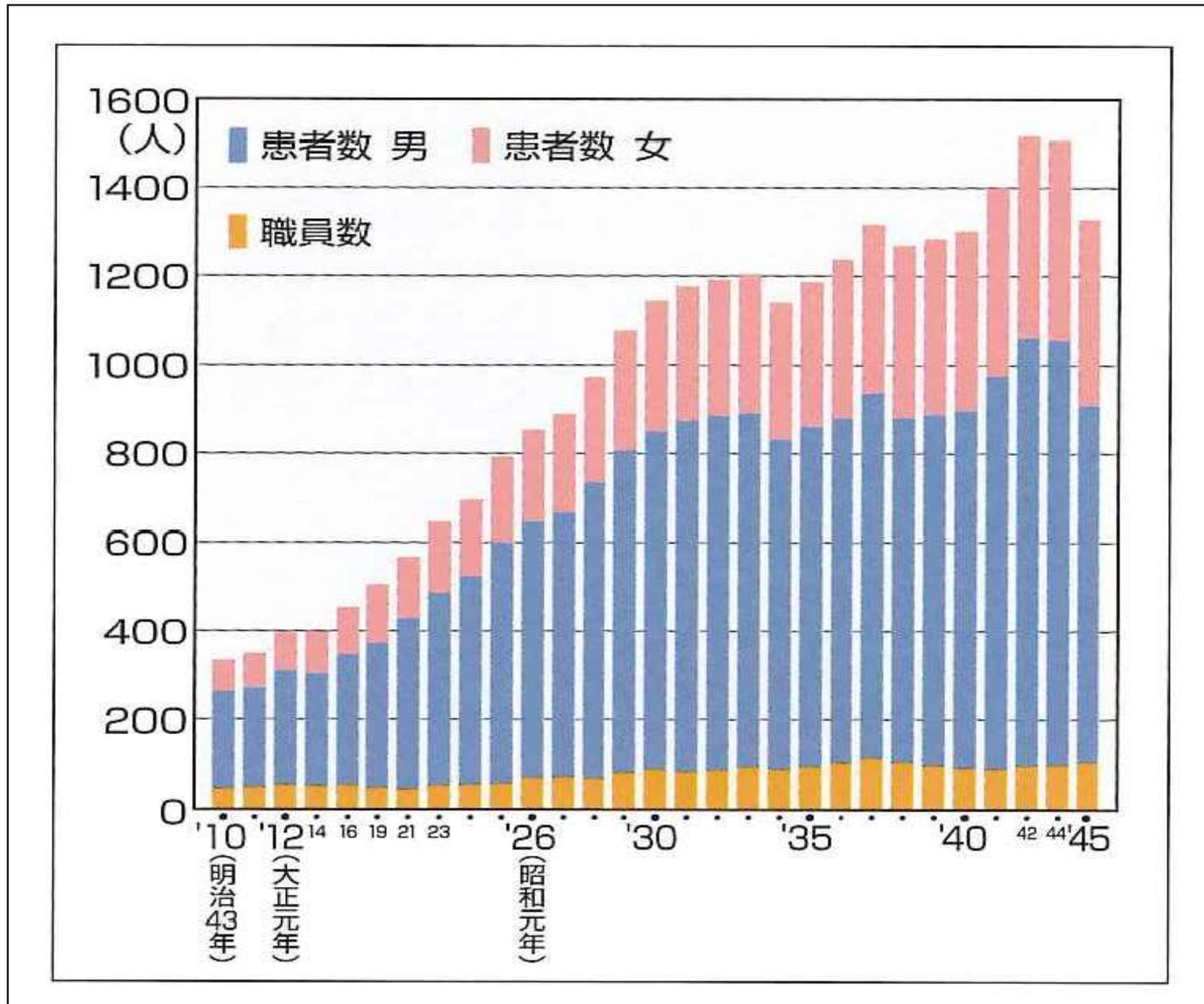
敷石敷設作業



治療助手



子どもの包帯巻き作業

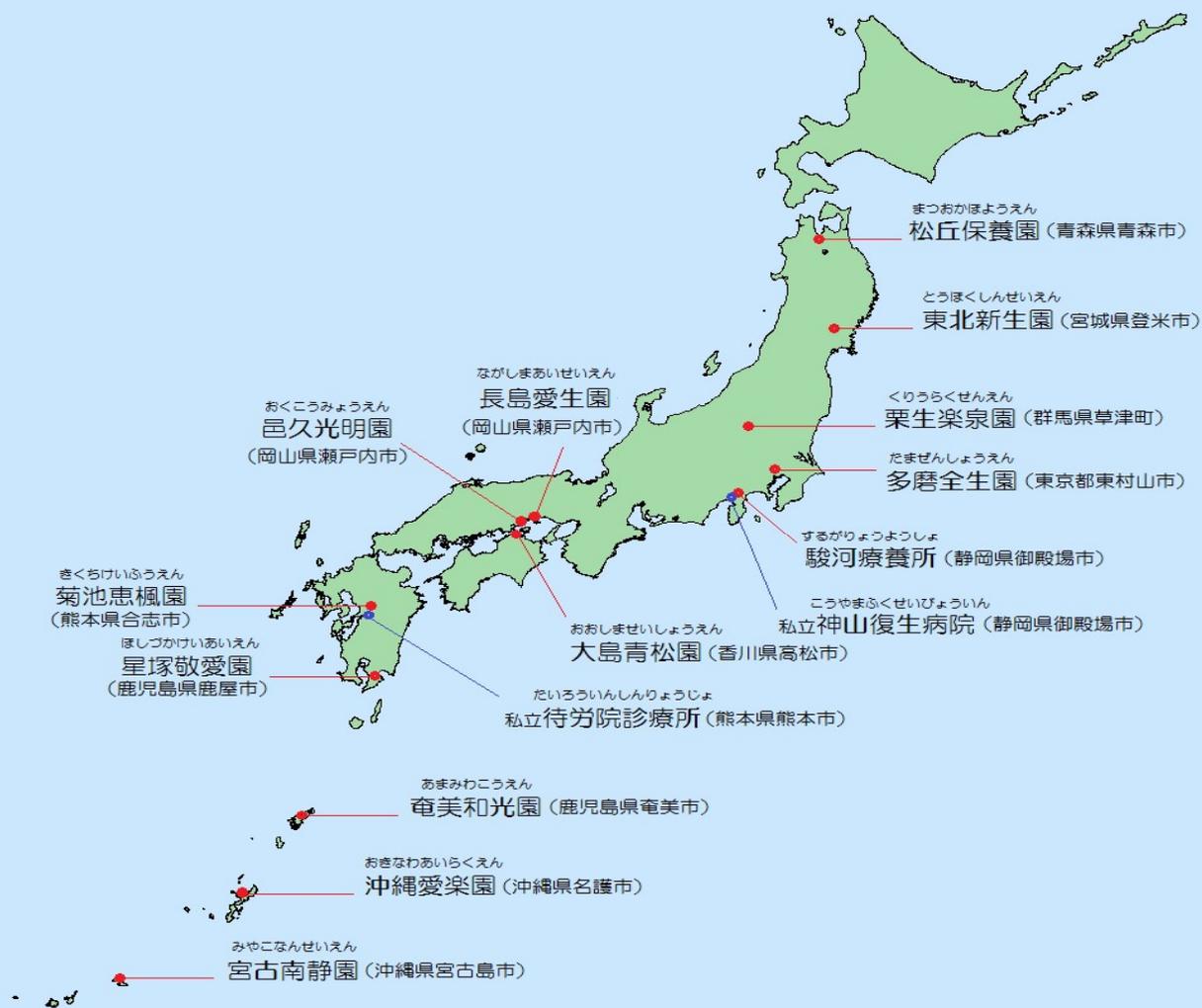


多磨全生園の入所者数と職員数の比率の推移



監禁室

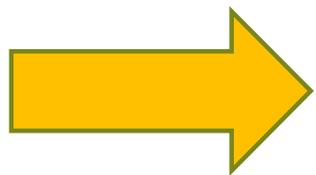
ハンセン病療養所所在地図



・1931(昭和6)年 「癩予防法」公布 收容対象→全患者

無癩県運動とは

- ・ 全国の各都道府県が競い合ってハンセン病患者を摘発、療養所へ隔離し、患者ゼロを目指すというもの。



「癩予防法」のもとで絶対隔離を推進するために重要な役割を果たした

- ・ 隣人が患者を密告し、医師や警察官が飛んできて患者を隔離していく光景が全国各地で展開。
- ・ 患者への同情を強調し「憐れな患者」は隔離施設に入ることが幸せであると絶対隔離政策を正当化。



1946(昭和21)年 東京大学でプロミン合成

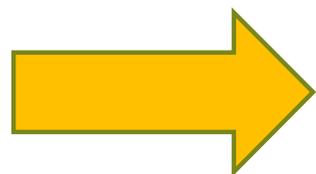


- 1951(昭和26)年
全国国立癩療養所患者
協議会結成
(現在は全国ハンセン病療養所
入所者協議会)
- 1952(昭和27)年
らい予防法闘争始まる(~1953
年)
- 1953(昭和28)年
「らい予防法」成立→入所規定
はあるが退所規定がない

園内デモ行進 (大島青松園・1953年7月~8月)

戦後においても継続した無癩県運動

- ・ 1947年5月27日、菊池恵楓園園長の宮崎松記は「癩患者の存在を知ったものは無記名を以て其所在を保健所又は県市町村の衛生当局に申告投書せしめる」ことを求める。



戦前同様、隣人による密告を奨励。同時に民間の「救癩団体」と協力して宣伝・啓発・患者収容を進めることなども求める。

- ・ 1947年11月に開催された国立癩療養所会議の場でも同様の意見が出され、「無癩県運動」を徹底して、強制隔離の強化を図っていた。
- ・ 「無癩県運動」は国や自治体だけではなく住民も加わり展開された。



医者よこせデモ(1972年)

世界の潮流

- 1958年の第7回国際らい会議、1963年の第8回国際らい会議で、ハンセン病に対する特別法の廃棄、強制隔離の廃止、外来治療の実施が提唱された。
- 1982年に多剤併用療法が開始され、ハンセン病は確実に治癒する病気となり、世界のハンセン病患者を激減させた。



■ 1996(平成8)年
「らい予防法」廃止

納骨堂にて献花する
菅直人厚生大臣(当時)



1996年 らい予防法廃止

1998年 星塚、菊池入所者13名が国家賠償請求訴訟を熊本地裁に提訴。その後、東日本と長島・邑久の入所者もそれぞれ東京地裁と岡山地裁に提訴。

2001年 らい予防法違憲国家賠償請求訴訟で原告側勝訴

2008年 「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」
(通称「ハンセン病問題基本法」) 成立



2012年 多磨全生園内に開園した保育園

- 1 ~ 31 史跡
- 1 ~ 32 日常生活と医療の場



※園内を歩く際は、入所者の皆様の御迷惑にならないよう御配慮下さい。

多磨全生園園内地図



居住棟



病棟



ショッピングセンター



神社



教会



寺社



築山（望郷の丘）



一人一木運動によって植えられた木



桜並木



国立ハンセン病資料館



故 佐川 修 さん



平沢 保治 さん

語り部活動

ハンセン病資料館の常設展示



展示室1 「歴史展示」

日本のハンセン病の歴史を古代から現代に至るまで概観する。



展示室 2 「癒療養所」

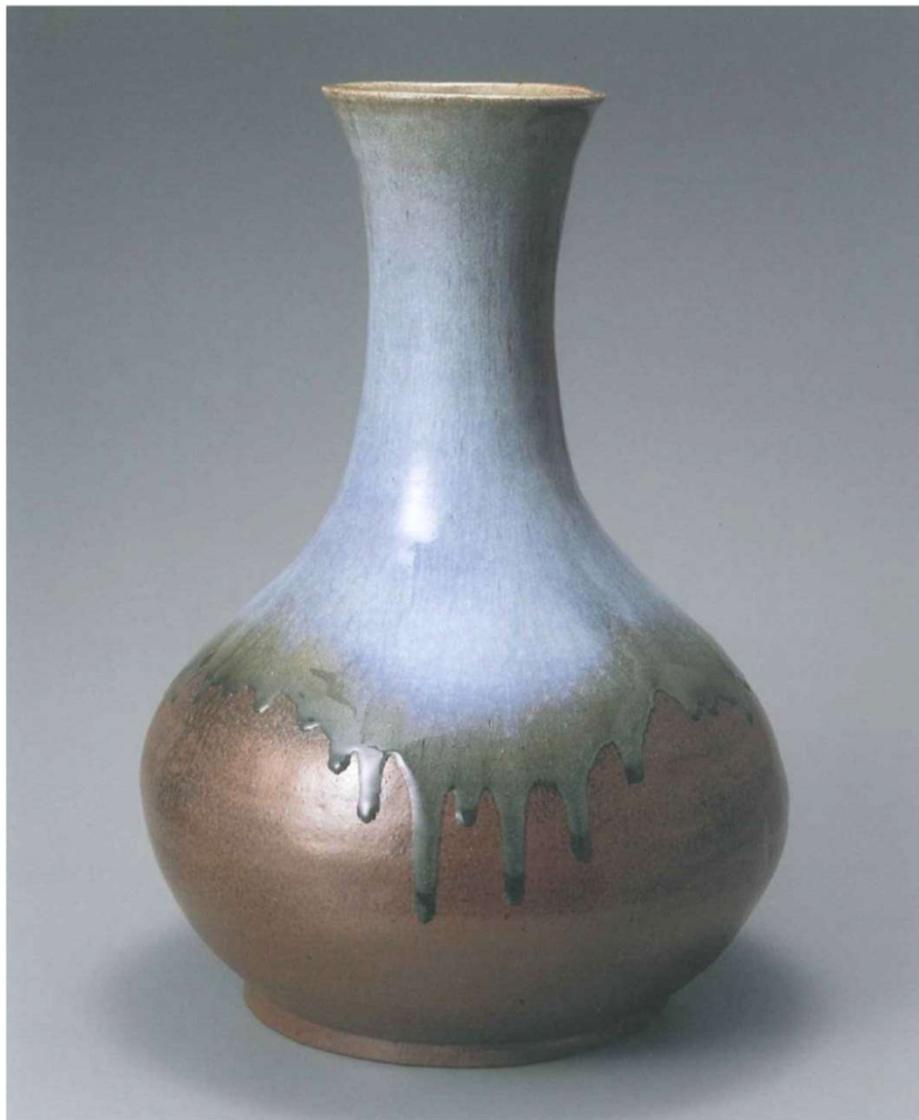
治療薬ができる前の時代を中心に、療養所における過酷な状況下での生活を展示。



展示室 3 「生き抜いた証」

過酷な状況にあってもなお、生きる意味を求めた患者・回復者の姿を示す。

生きる意味を求める活動

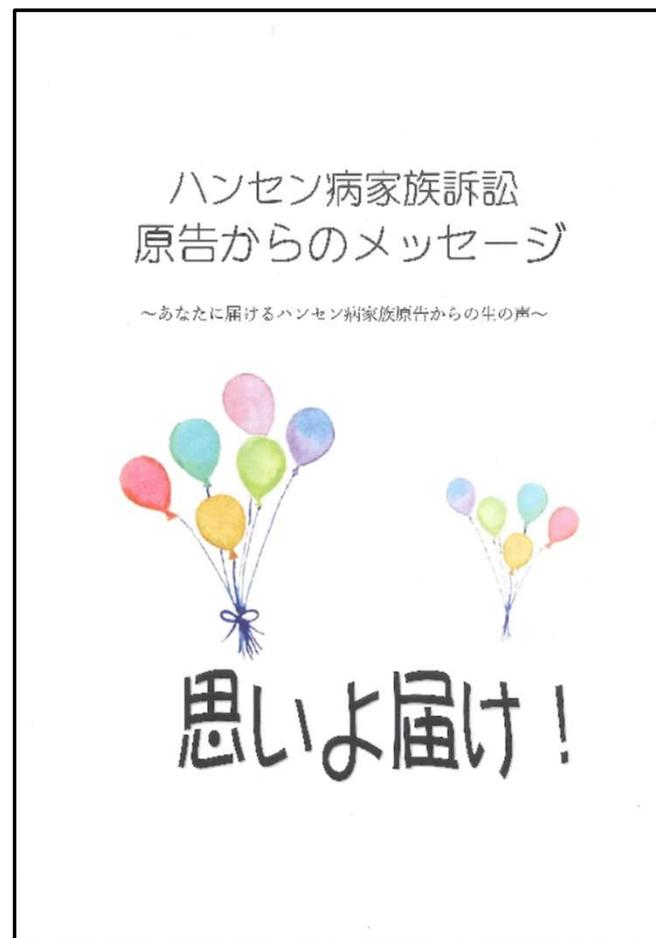


北 高
(きたたかし) さん



納骨堂

ハンセン病家族訴訟原告からの メッセージ



ハンセン病家族訴訟
弁護団発行
(2019年6月)

家族の声

うまれても母もわからず、祖母に育てられた。他の親族にもいじめられ、夫の家族からも嫌がらせを受けた。母も私も、何も悪いことはしていないのに。国に謝ってほしい（原告番号230番 沖縄在住 80代女性）

私はハンセン病をテレビで見て知っている程度で私達世代にはあまり関係のないことだと思っていました。でも父がハンセン病だと知った途端、夫の母親や祖母の態度が変わってしまい、夫も私のことを菌扱いし、子供が出来ても、ハンセン病になるかもしれないから、私とは子どもは作れないからと離婚することになってしまいました。

（原告番号385番 関東在住 30代 女性）

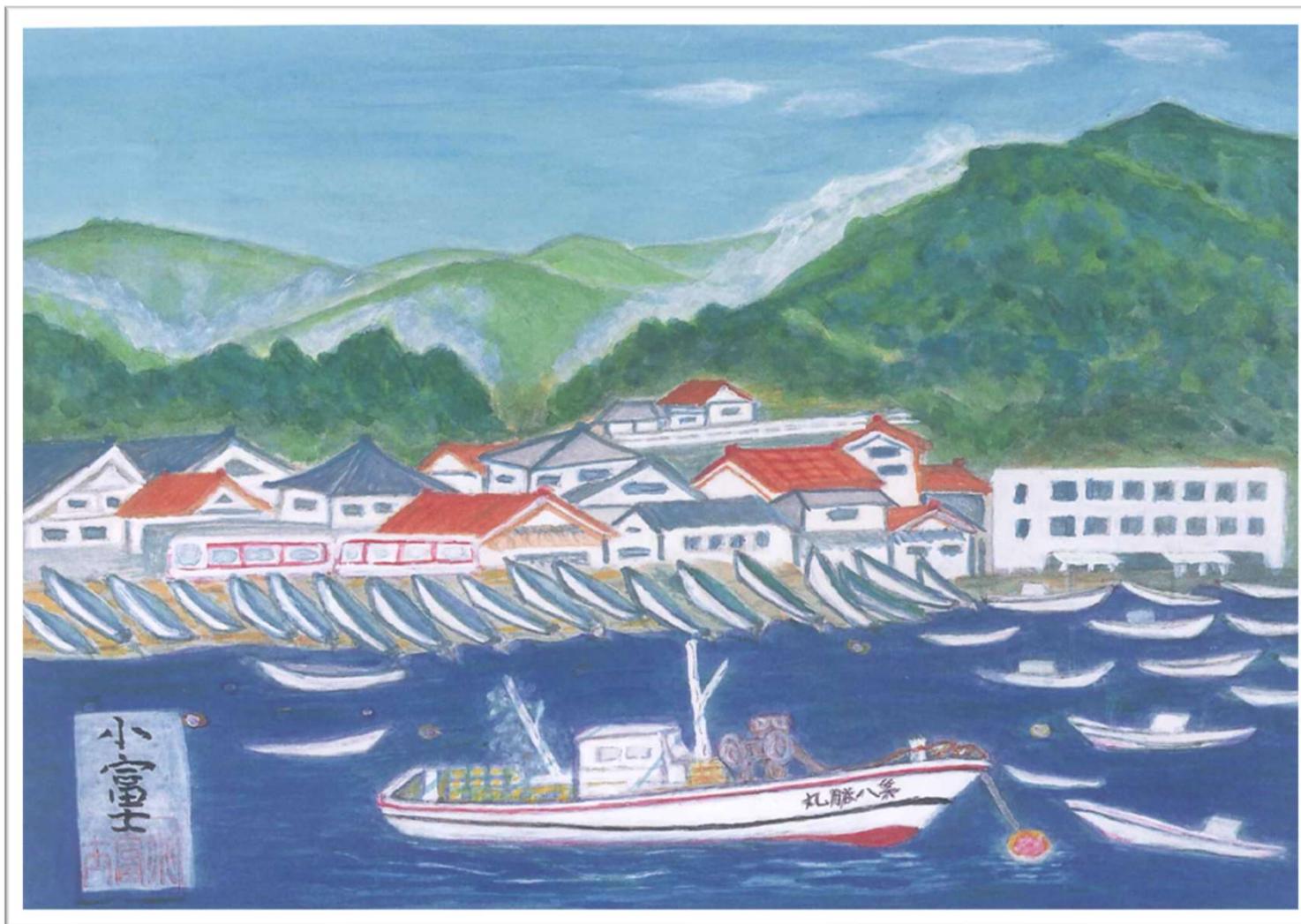
○ハンセン病政策の誤りから
何を学ぶか。

○ハンセン病患者・回復者・
家族にとっての名誉回復とは？

**「どのような状態にあり、
ハンセン病を隠さなくてよい社会
環境をつくることである」**

**成田 稔「国立ハンセン病資料館への期待(24)」
全生互惠会『多磨』94巻10号、2013年10月**

ご静聴、ありがとうございました。



桃生小富士「ふるさとの海と山」